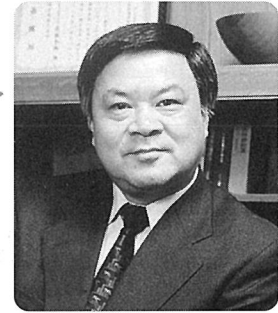


巻頭のご挨拶

社団法人 北海道林産技術普及協会

会長 高橋 秀 樹



皆様 明けましておめでとうございます。

平成21(2009)年の新春を会員皆様とご一緒にお慶び申し上げます。

日頃より当協会の運営に対し、ご指導ご協力を賜り誠にありがとうございます。

当会は昨年、ウッドエイジの刊行、木の情報館の展示、講演会、情報交換会などを通じ、北海道立林産試験場の研究内容や成果を広く皆様にお知らせいたしました。また7月には北海道立林産試験場と共催で「木のグランドフェア」を開催し、多くのご家族や子供さんに喜んでいただきました。

さて、昨年9月勃発した米国の金融危機は、世界経済に深刻な打撃を与え、あの元米国FRB議長グリーンズパン曰くの「100年に一度の経済危機」が起こってしまいました。正直、あまりに世界規模で、あまりの被害の大きさに、今後どうなるのか、全く想像もつきません。

今回の資産の暴落は企業や投資家ばかりでなく、多くの一般人も被害を受けています。低金利が長く続いたため、定期預金から株や債権など、投資信託にシフトした人が多いのです。団塊世代の退職金も被害を受けたと聞きます。現役のサラリーマンの中では、退職年金401Kや自社株積立制度などで被害を受けていると聞きます。

近年、我々日本の木材業界は世界資源ナショナリズム対策として国産材時代へ、地球温暖化対策として人工林時代へシフトし、また石油の値上がりから、木質バイオマスエネルギーの利用を促進してきました。住宅プレカット時代に対応し、人工乾燥材と集成材化が一般仕様となりました。

またシックハウス事件、耐震偽装事件、食品偽装事件の多発から、新JASフォースターズの取得、品質保証、住宅完成保証、産地証明、建築基準法4号特例見直しなど、安全安心住宅を目指すため、木質資材を発展させてきました。

この世界不況で何が起こるか予測はつきません、世界中の資源切り売りが始まる可能性があります。外国為替の円高、石油値下がり、国際船運賃の値下がり輸入品に分があります、国産材、国内生産品は厳しい競争にさらされます。

そして、なによりも心配なのは日本の実体経済の落ち込みです、住宅着工が落ち込むと、この数年国内で大量生産製材・合板工場が建設された結果として、需給バランスが崩れる恐れがあります。また、不動産デベロッパーの破綻と建設業の連鎖破綻から信用不安も発生しています。

この混乱の中とはいえ、国産材、人工林、バイオマス、地球温暖化対策、安全住宅、品質保証は全てあるべき姿であり、引き続き継続発展させねばならない課題であり、北海道立林産試験場に益々大きな期待が寄せられています。北海道林産技術普及協会は試験場と業界を結ぶ役割を粛々と果たしてまいります。本年も皆様のご協力を宜しくお願いいたします。